

# 「この夏だけやる」と全部やる

戦争法案の強行採決に反対し、必ず廃案にしようという15日から17日までの3日間、国会正門前でおこなわれた夜の連続緊急抗議行動。主催者のまとめによると、世代や立場の違いを超えて3日間でのべ20万人近い人が集まりました。抗議行動初体験の人を含む多くの若者が各地から参加して、声をあげました。(土田千恵 前田智也)

## 民主主義

国会正門前での行動は、総のたのめ学生緊急行動が協がかり行動実行委員会と、学力して呼びかけました。SEALDsは、午後7時半以降(シールズ)自由と民主主義の抗議を担当しました。

衆院安保法制特別委員会で強行採決された15日。委員会を傍聴し、強行採決の瞬間を目の当たりにした東京都新宿区に住む大学生、松阪充訓さん(23)が強い口調で語りま



国会正門前で抗議する若者たち(15日)

## 戦争法案廃案へ若者熱気 「民主主義ってこれだ」

「本当に許せない。議論はまったく進んでいないし、議会制民主主義の否定だと感じました」

この日の抗議行動には約10万人が参加。大学生をはじめ、学生服を着た高校生、子どもを連れたパパ・ママがいます。マフクを持ったコーラーと参加者の掛け合い「民主主義ってこれだ」「これだ」「夜遅くまで寝ない」「なんか自民党感じ悪いよね」「アベはやめろ」のコールもありました。

## 全力あげ

野党の国会議員も参加しました。日本共産党の志位和夫委員長は、戦争法案阻止のためには「これまでのたたかいは、たかよりも、広く深い、空前のたたかいになっていると思います。若い人がその先頭にたっている。ここに日本の未来がある」とスピーチしました。

「抗議行動というものに初めて参加した」という東京都北区の高校生、井上直理子さん(17)は「解党で憲法を愛えて、強引に法案を通すなんて許せない。反対するのは当たり前です」と話します。

行動には、多くの学童や若者、アーティストの姿もありました。少し後方でコールしていた、松田チャーベ岳二さん。バンド、DJ、音楽制作など、多方面で活躍しているアーティストです。「私も頭数になりました」。

## 声あげて

17日は、約5万人が集まりました。札幌市で「戦争したくなくてふるえる」デモを呼びかけた高塚愛基さん(19)がスピーチしました。

高塚さんは「強行採決なら(ごても)むかつく」「当事者だからあるえてる」とコールしました。大学生の本間信和さんがマイクで呼びかけます。

## SEALDs

奥田愛基さん(大学4年生)



国会正門前コルする奥田愛基さん(15日)

## 立場超え集まる場所

抗議行動後の世論調査で、内閣支持率が30%台まで落ちた。この政権はもうつたない、強く確信しています。SEALDsは定例の国会前抗議、東京・渋谷の街宣、15日、17日の国会前抗議の中で、前にも増している人々が世代や立場を超えて集まる場所をつくっていったと思っています。何かあったら国会前に行こうというカルチャーも、かなりできてきているんじゃないかな。たまたま見て参加したとか、ひとりひとりが個人の思いで来る。こういう形で集まれる運動が生まれてるって、歴史的に見てもすごいことだと思ってる。僕らは24日の「安倍政権NO」首相官邸包囲、行動をはじめ、安保法制を絶対に止めるために、さらに若派や年代を超えて取り組んでいきます。

強行採決されたばかりで、やめようか、なめたか、どうしようもないとかいう気持ちは、みじんもないです。3日間、国会前の先頭に立ちましたが、あんなに大きい声は今まで聞いたことなかったです。2013年12月の秘密保護法強行の時よりもさらに、みんな本当に怒ってる。肌で感じました。6月から国会前の抗議を始めると、どんどん人は増えている。